

[インデックスに戻る](#)

8. 複素数と方程式

8-1. 複素数と2次方程式

8-1-1. 複素数の定義と計算

8-1-1-2. 複素数の計算

複素数どうしの四則演算（加法・減法・乗法・除法）を次のように定義する。複素数どうしの四則演算の結果（和・差・積・商）は、また複素数である。ただし、除法の分母は0でないとする。

複素数の四則演算

i を虚数単位とし、 a 、 b 、 c 、 d を実数とする。

$$(a+bi)+(c+di)=(a+c)+(b+d)i$$

$$(a+bi)-(c+di)=(a-c)+(b-d)i$$

$$(a+bi)(c+di)=(ac-bd)+(ad+bc)i$$

$$\frac{c+di}{a+bi} = \frac{ac+bd}{a^2+b^2} + \frac{ad-bc}{a^2+b^2}i \quad (\text{ただし } (a,b) \neq (0,0))$$

i を文字のように扱って計算を進め、 $i^2 = -1$ に置き換えると、これらと同様の結果が得られる。ただし、除法の計算は、分母と分子に $a-bi$ を掛けることによる。また、複素数 α について、 $-\alpha$ は $(-1)\alpha$ を表すものとする。すなわち、 $-(a+bi) = (-a)+(-b)i$ である。

(例)

$$(1+5i)+(3+2i)=4+7i$$

$$(1+5i)-(3+2i)=-2+3i$$

$$(1+5i)(3+2i)=3+15i+2i+10i^2=3+17i+10i^2=3+17i-10=-7+17i$$

$$\frac{3+2i}{1+5i} = \frac{(3+2i)(1-5i)}{(1+5i)(1-5i)} = \frac{3-13i-10i^2}{1-25i^2} = \frac{3-13i+10}{1+25} = \frac{13-13i}{26} = \frac{1-i}{2}$$

a 、 b を実数とするとき、複素数 $a+bi$ と $a-bi$ を互いに共役な複素数という。実数 a と共役な複素数は a 自身である。

α 、 β 、 γ 、 z を複素数とすると、四則演算の定義により、次のことがいえる。

$$(\alpha + \beta) + \gamma = \alpha + (\beta + \gamma) \quad (\text{加法の結合法則})$$

$$\alpha + \beta = \beta + \alpha \quad (\text{加法の交換法則})$$

$$\alpha(\beta\gamma) = (\alpha\beta)\gamma \quad (\text{乗法の結合法則})$$

$$\alpha\beta = \beta\alpha \quad (\text{乗法の交換法則})$$

$$\alpha(\beta + \gamma) = \alpha\beta + \alpha\gamma, \quad (\alpha + \beta)\gamma = \alpha\gamma + \beta\gamma \quad (\text{分配法則})$$

$$\alpha + 0 = 0 + \alpha = \alpha$$

$$\alpha \cdot 1 = 1 \cdot \alpha = \alpha$$

$$\alpha + (-\alpha) = (-\alpha) + \alpha = 0$$

$$\alpha \neq 0 \text{ のとき } \frac{1}{\alpha} \cdot \alpha = \alpha \cdot \frac{1}{\alpha} = 1$$

$$\alpha \cdot 0 = 0 \cdot \alpha = 0$$

$$z + \alpha = \beta \Rightarrow z = \beta - \alpha$$

$$\alpha z = \beta \text{ かつ } \alpha \neq 0 \Rightarrow z = \frac{\beta}{\alpha}$$

$$\alpha\beta = 0 \Rightarrow \alpha = 0 \text{ または } \beta = 0$$

虚数については、大小関係を考えない。

[インデックスに戻る](#)